なくせ公害　まもろう地球環境　　THINKANDACT,GLOBALLYANDLOCALLY

JNEPnews

Japan Network for Earth Environment and Prevention of Pollution (JNEP)

No.285

2019年11月

公害・地球環境問題懇談会

http://www.jnep.jp/

スーパー台風と地球温暖化

道路が冠水したいわき市下平窪地区（菅家新宅の二階から）

目次

スーパー台風と地球温暖化
　台風19号の予想もしなかった被害…… 2
　気象災害と地球温暖化…… 3
　気候危機と再生可能エネルギーを考える大学での出前講座…… 5
第8回フクシマ現地調査…… 7
JNEP情報…… 8
活動日誌と日程…… 9
西順司さんの訃報…… 9
ネモやんの福島便り…… 10

台風19号 予想もしなかった被害

いわき市平下平窪住民　菅家新
(公害・地球懇幹事　いわき市民訴訟原告)

12日午後５時には自宅周辺の全ての道路は川になっていた。これは多量の雨があった場合に側溝の許容水量を越えて道路が川になることがあるのでいつものことと判断した。平窪地区とは妻の眼前で老夫が水没死したという衝撃的なことがあったところです。

午後7時20分いわき市のエリアメールが携帯に入った。『新川に避難指示(緊急)(警戒レベル4)を発令しました。』と。このメールから、最後になった13日零時49分着のものまでに26回あったが、平窪地区を流れている夏井川に関するものは3回で、平窪に触れた内容のものはなかった。周辺住民には高齢者が多く、後日談では普段通り10時頃には就寝していたとのこと。携帯とか市のHPが主流になっていることが伝達の問題である。平窪地区の避難場所はHPによると夏井川を渡って5キロ近くある中学校だったので諦めた。現地を知らない職員が担当しているのではないか。

13日になる頃には台風も過ぎてすでに雨も風も止んでいた。１時20分頃道路の水を確認したら水位がみるみる上がるのがわかった。隣近所に大声で危険を呼びかけたがどの家からも返答はなかった。浸水しないように玄関を塞いだのだが、いつの間にか畳が浮いてきたので物を２階に上げ始めた。それも間に合わないくらいの急激な水位の上昇だった。

3時近くになると周辺の家に電気がつき始めた。後日談では１階に寝ていた人は水に浸って気が付いて起きたそうだ。隣の平屋の高齢者夫婦は調理台の上に２人で乗って水が引くまでの５時間くらい我慢しました。道路が急流となっていたので救助には向かえなかった。朝の７時近くになって１階の浸水は無くなり、お昼頃になって道路からも水はなくなった。停電は１日でしたが、断水は20日以上続きました。

その後「り災証明書」の申請が１週間後に始まったのですが、交付が11月に入ってやっと始まり事務処理の遅滞には困った。支援・援助関係の申請を出すのにも「り災証明書」が必要なのに、各種申請を始めた窓口では無いので受け付けてくれない。「私担当でないのでわかりません！」お互いに激怒する瞬間。隣の小さな町職員はすべてのことに精通していてテキパキと用事を済ませてくれる。自治体が大きくなればいいという話ではない。大きくなればなるほど住民無視の行政が横行していくように思える。

地球規模で見れば温暖化の問題が横たわっているのだが、地域で言えば河川の治水管理・保守点検作業員の削減、山林の管理者などの削減、災害時に動員されるべき人員が自治体に確保されていないなど、各事業の民間委託が進むなかで必要とされる人員までもが削減されている実態が被害をさらに大きくしていると思わざるを得ない。

皆さんからの支援物資は勿論ですが、一言一言の声掛けが如何にありがたく心強いものであることか身に染みています。ありがとうございます。

気象災害と地球温暖化

元・気象研究所研究室長 理学博士 増田善信

1、台風15号、台風19号、そして豪雨

2019年の日本列島は9月から10月末にかけて、台風15号（9月5～10日、三浦半島を通過、千葉市に上陸）、台風19号（10月6～13日、伊豆半島に上陸）、低気圧に伴う豪雨（10月24～26日）に見舞われ、甚大な被害を受けた。台風15号は比較的小型であったが、猛烈な強風を伴い、特に、千葉県では強風で屋根が飛ばされ、電柱の倒壊や倒木によって長期停電が続き、1か月後に襲来した台風19号とその後の豪雨によって三回も被害を受けた。

台風19号はカテゴリー5＊のスーパー台風で、東日本と東北地方を中心に広い地域で記録的な豪雨を降らせ、120地点で12時間降水量が観測史上1位を更新し、249地点で10月の1位になった。また、ちょうど大潮と重なったため、高潮の被害もあり、強風、豪雨、高潮、高波の被害が続出した。

国土交通省の10月18日の発表によると、この豪雨によって、71の河川、128か所で堤防が決壊し、265の河川で川の水が堤防を越える「越水」などによる氾濫が発生した。総務省消防庁の11月7日の発表では、後述の10月25日以後の大雨の被害を含め、死者95人、行方不明者5人、重傷者40人、軽症者432人が確認されたという。交通機関、電気・ガスなどのライフラインも大きな被害を受け、農業・漁業は壊滅的な打撃を受けた。福島原発事故後の除染廃棄物を入れた袋が91個も流出したという（11月3日のNHKニュース）。さらに、10月23日に東シナ海で発生した低気圧が、24日から26日にかけて西日本、東日本、北日本の太平洋岸に沿って東進したため、関東から東北の太平洋岸を中心に広い範囲で豪雨が降った。この大雨の影響で、土砂崩壊、浸水、河川の氾濫による被害が発生した。

2、台風の進路予想はよくなった。早めに対処を

今回の災害で亡くなった人の多くは自宅での死亡だったという。おそらく避難が遅れたためであろう。避難についていえば、自治体は人命第一に、空振りを恐れず避難命令を出すことである。最近の台風の進路予想の精度が上がって、台風19号では上陸3日前にほぼ正確な進路が予想されていた。その情報を見て、余裕をもって避難を考えることが重要だと思う。また、自治体が浸水や土砂災害の危険地域などを示したハザードマップを整備しているから、これらを活用して危険性の高いところほど早めに避難命令を出すことだ。しかし、避難の必要のない地域まで一律に避難命令を出し、避難所があふれ、豪雨の中を別な避難所に移動したことも報じられている。ハザードマップで床下浸水くらいのところは、まず自宅の二階か、近くの高い建物に避難するほうが良い。独り暮らしの人は心細く、二階があっても避難所へと思うかもしれないが、隣近所で集まる場所を決めておくといい。しかし、この人たちも“避難者”である。自治体はこの人たちも含めて対策をとる必要がある。

災害情報は、マニアル通りではなく、予想される災害に応じて避難情報を出す必要がある。また、暴風や豪雨で防災無線が聞こえなかったところもあった。防災ラジオや防災電話など、すべての家庭に情報が届く方法を確立することが求められている。

台風19号被害では、千曲川、阿武隈川など大河川の氾濫被害が大きかったが、「支流の逆流」で中小河川の決壊、越水が各地で起こった。しかし、国土交通省の発表によると、71の河川で浸水想定範囲が決めてなかったという。中小河川の治水の重要性が浮き彫りになった。ダムの緊急放流による被害もあった。台風の進路予想や降雨予測をふまえて、早目に放流をしていれば防げたと思う。また、豪雨の時は、流域全体に大量の雨が降っているから、下流では雨が上がった後、かなり時間が経ってから洪水が発生する。忘れてはならない。自治体職員が減り、非常勤職員が増えたため、退避者の誘導などで齟齬が生じた例も報告されている。行政が責任が持てるような人員増を図る必要がある。

3、強力な台風の襲来や大雨は地球温暖化と関係があるか？

衰えないまま日本にやってくる強力な台風とか大雨は、WMO（世界気象機関）のいうところの「極端現象」の一つであるが、極端現象には、集中豪雨や竜巻、急速に発達する低気圧、台風など、比較的狭い範囲の激しい気象現象と、熱波や寒波、長雨、干ばつなど、比較的広い範囲で、10日以上も続く異常現象の二つがある。前者を第1種の極端現象、後者を第2種の極端現象と呼ぶ。温暖化によってこのいずれも増える可能性があるのである。

大気中に二酸化炭素が増えると、下層ほど温度が上がり、上層は相対的に寒冷化する。上が重く、下が軽い状態、ちょうど”起き上がりこぼし”を逆さにしたような状態になる。こういう状態を、「大気は不安定」というが、何かのきっかけでひっくりかえり、上昇気流が起こり、集中豪雨など第1種の極端現象が起こりやすくなる。温暖化によって、地球全体ですでに不安定な状態ができているのである。一方、温暖化によって海水温も上がっているので、東シナ海や太平洋から、湿った空気が入ってきて、何らかのきっかけで上昇すると、水蒸気は凝結して水滴を作り、気化熱を出す。この気化熱でその周辺が温められるので、さらに安定度が悪くなる。第1種の極端現象がさらに増えるのである。

第2種の極端現象はどうか。この原因はまだはっきりしていないが、私は、温暖化が進むと、赤道と極地方との温度差が変化し、大気の大きな流れが変わって、ブロッキングが増えるためだと考えている。ブロッキングというのは上層の流れがほとんど止まって（ブロッキングされ）、同じような気圧配置が続くことを言う。

北極圏では、温暖化で雪や氷が解けて地面が現れると、太陽光が地面に吸収されるようになり、地面を温める。するとさらに雪や氷が解け、地面を温める。これに北極海の氷が解けて太陽光を吸収する効果も加わり、北極圏のほうが赤道より早く温暖化する。南極では南極海の影響で温暖化が早まる。その結果、赤道と北極、赤道と南極の気温差が小さくなる。このことから大気の流れが変わり、ブロッキングが増えると考えたのである。

台風15号、台風19号の経路はブロッキング高気圧の影響を受けており、昨年7月の西日本豪雨もブロッキングによって不安定度な湿った空気の流入が5日間も続いたためであった。

温暖化でブロッキングが頻発すると熱波や寒波だけでなく、集中豪雨なども長く続くようになるおそれがある。

4、二酸化炭素削減は至上命令

スウェーデンの高校生グレタ・トゥーンベリさんは、国連の環境問題特別会同で各国首脳を前に「多くの人たちが苦しんでいます。多くの人たちが死んでいます。全ての生態系が破壊されています。私たちは大量絶滅の始まりにいます。それなのにあなたたちが話しているのは、お金のことと、経済発展がいつまでも続くかというお伽話ばかり。恥ずかしくないですか！」と訴えた。アメリカのトランプ大統領は、この訴えには耳を貸さず、2020年11月4日のパリ協定からの正式な離脱を国連に通告した。安倍首相に至っては、この会合に出席さえしなかった。そして、日本政府は石炭火力発電所の建設を進め、外国への輸出さえもくろんでいる。この2人は温暖化防止の妨害者といってもいいであろう。

しかし、グレタさんの動きに呼応する学生の運動は世界規模で広がっており、気候非常事態宣言を出す国や自治体も増えている。二酸化炭素の使用をゼロにする技術はすでに確立している。問題はそれを実行する意志だけである。

私は2010年にいち早く『地球温暖化を理解するための　異常気象学入門』（日刊工業新聞社）を出版し、温暖化が進むと異常気象（極端現象）が増える可能性があることを警告した気象学者である。IPCC（2013）によると、今までの全世界での二酸化炭素の使用量をそのまま継続すると、世界の平均の地上気温の上昇を2℃以下に抑えるために残された年数はわずか30年であるという。グレタさんはその後の二酸化炭素の使用量を勘案したのであろう、残された時間はたった8年と述べている。

私はグレタさんよりずっと前から各地の講演会で温暖化の危機的な状況を警告してきている。しかし、同時に自然エネルギーに切り替えれば必ず解決できることも伝えている。すなわち、それぞれの国で、二酸化炭素など温室効果ガスの排出を規制し、自然エネルギーを使う政府に変えさえすればよいのである。広島・長崎に原爆が投下されてから73年、ついに核兵器禁止条約が締結され、批准、実施される日も近い。全世界の人々が力を合わせれば二酸化炭素排出ゼロの世界も必ずつくれるのである。希望をもってこの大道を進み、人類を救おうではないか。

＊アメリカ気象局はハリケーンの強さを最大風速によって1から5の5段階に分け、カテゴリー5は最大風速が、70m/s以上のものをいう。日本では台風の大きさと強さで分類し、33m/s以上～44m/s未満を「強い」、44m/s以上～54m/s未満を「非常に強い」、54m/s以上を「猛烈な」台風と呼び、大きさについては、風速15m/s以上の半径が、500以上～800未満を「大型（大きい）」、800以上を「超大型（非常に大きい）」と呼んでいる。台風19号は超大型で猛烈な台風であったが、アメリカ流に初めてカテゴリー5の台風とも呼んでいる。

長野県を流れる千曲川の堤防決壊により、流域で広範囲に浸水被害が出た
NewsJapanより

気候危機と再生可能エネルギーを考える 大学での出前講座

公害・地球懇幹事 奥田さが子

11月21日、２度目の出前講座は、教員になる学生の多い山梨の大学で「社会概論」「教材研究」を履修する授業に、ゲストティーチャーとして呼んでいただきました。3コマ計約250人が対象です。

ここでも認識の実態を知るため事前アンケートをお願いし、これに答える内容とするため、前日はほぼ1日かけて担当の橋本良仁、奥田さが子の二人で打ち合わせ。検討を重ねた結果、今年9月26日に放映された「クローズアップ現代＋」30分を授業の中で見せる形で１時間半の授業を組み立てました。長い猛暑に続いて大型台風の襲来で身近に被害が迫った後ということもあり、6月の中学生より「温暖化」情報への関心は高かったのですが、事前アンケートに見ると、原因についての理解は不十分で、温暖化のしくみについてはほとんど知らない状態。

産業革命以降急速に温暖化が進んだことについても「地球の周期的な変化ではないか」「温暖化はないという意見もあるけれど、どうなのか」といった疑問も出されていました。

「気候異変」ではなく「気候危機」と呼ばれるに至った現在を知るだけでなく、未来の展望を切り開くための再生可能エネルギーの話に力を入れ（時間の制約もあって十分とは言えないが）最後に10分の時間をとって感想を書いてもらいました。

Ａ４ペーパーにぎっしり書いてくれた学生が多く、それを読むと、同じ世代の訴え（クローズアップ現代＋のグレタさんや日本で「気候マーチ」を呼びかけた宮崎さんの話）が、若い人たちの心にひびいたようです。今後この問題をしっかり考えたい、教師になった時、子ども達とともにどう学び、行動していくか考えてみたいということと、「気候正義」というのは、人権の問題であり、様々な格差をただしていく倫理の問題、そして自分たちは未来を決める主権者なのだということに改めて気付かされた、とそれぞれの言葉で書いてくれたことに大いに力づけられました。

以下に感想から少し抜き出し紹介します。（長文なので全て抜き書きです）

◎ 正直なところ、温暖化が問題になっていると知っていながら、ここまで深刻で実害が目前に迫っているとは知りませんでした。グレタさんの話すいくつもの言葉にハッとさせられました。

◎ 過去の行いが現在と未来の子どもたちに大きすぎる害を与えているのだと思うと、自分も何かしなければならないと感じます。

◎ 日本の政府はこの地球温暖化の対策に「国として」動くべきだと思います。また小学校教員として未来を担う子どもたちに教えていきたいです。一人一人の意識が未来を大きく変えると信じて、地球環境に関心のある人に育てていきたいと思います。

◎ 16歳の少女が言っているように、やるべきことは明確なのだから行動してほしいと思う。自分たちの利益を考えるのではなく、10年、20年、100年後生きている人たちの利益というものを考えて政治をしてもらいたいです。

◎ 自分より年下のグレタさんの問題意識と行動はすごいと思いました。確かに日本の未来、世界の平和について考えなければならないのは、特に次世代である私たち若者だと思います。グレタさんのようにSNSで声を上げるというのは、現代では有効な手段ではないかと考えます。そのように私も小さな一歩から環境問題について考えていきたいです。児童の環境問題の取り組みとして、自分が教育実習に行った小学校がアースキッズプロジェクトという企画に参加しており、こうした小さい頃から環境問題に視点を向けることで問題意識が上がるのではないかと思いました。

◎ 地球の危機が確かに近づいているのを実感しました。正直、まだどんな活動をすればいいのか具体的にはわからないけれど、政治を見る、選ぶ権利を大切に、地球のために動きたいと思いました。

◎ 地球温暖化は自分が思っていた以上に深刻な状況で人類には時間がないということ、16歳でさえこの問題に真摯に向き合っているということを知った。もっと自分ごととして向き合い、教師として子ども達に伝えていくことが必要と考える良いきっかけになった。

◎ 他国に比べて日本の削減目標がとても低いということに胸が痛くなりました。私よりも小さい子供が親と一緒にデモに行ったり周りに発信していることに感心しました。

◎ 教育実習をした小学校の学習発表会に昨日参加しましたが、小学生も「地球温暖化」をテーマに発表している児童が多くいました。

◎ 小さな子供たちがこんなにも問題視しているのだから成人した大人の一人として私も未来のためにしっかり考えていくべきだと改めて思いました。16歳の少女の訴えに心を動かされました。「未来がないのに学ぶ意味はない」という考えに、なるほどと思いました。

◎ デモをすることが全てではないと思うけれど、一人一人がもっと考えられるように発信していくべきだと感じました。

◎ こうして話を聞く機会があってよかったです。教師を目指している立場の私たちは学びを深め子どもたちに伝えると同時に、子どもを通して親や地域にも伝えるなどしていけるようになりたい。

◎ 小さな、できることから活動していかなければならないなと思うことができました。デモを起こすまで未来のことを考え行動している若者が世界にも日本にもいることを知り、その人たちの勇気と積極性を見習い、私自身も口だけじゃなく、行動できるようにしていきたいなと強く思いました。日本政府も対策により力を入れて欲しいです。

◎ 日本人は地球が悲鳴を上げている現状を知ることが大切だと思います。知らないことが多すぎるし、知る機会も少ない。政府などがもっと日本全体に知らせるような活動も必要だと思います。現状を知ることで変わろうとする意識がつくし、それが何百万人に広がることで日本が変わるような気がします。

◎ 今までずっと、この便利でとても平和な生活が続いていくと考えていた。だから温暖化と聞いても、自分とは関係ないと思っていた。しかし今日の話を聞いて、今のこの生活は、このままでは失われてしまい最悪命まで奪われてしまうと知った。私たちが便利に生きている生活のその裏で、そのツケを受け弱い国が被害にあっている。先生の最後の言葉「気候正義は人権の問題」はとても心に響きました。

準備にあたって、相談の電話に資料やアドバイスを届けてくれた歌川さん、DVDを送ってくれた根本さん、JNEPの仲間の協力は強力。他の学校にも働きかけていますが、若い世代への働きかけは本当に大切。みなさんのご紹介を待っています！

第8回フクシマ現地調査

公害・地球懇事務局員　田中史子

11月16(土)～17日(日) 第8回フクシマ現地調査が行われた。参加者30名(東京から18名、現地で12名)

16日11時にいわき駅よりマイクロバスで出発。

塗り替えられるフクシマのイメージ

伊東達也さんの案内で、広野町のサッカースタジアムJ・ビレッジ、新駅J・ビレッジをバスから見た。J・ビレッジからはオリンピックの聖火がスタートすることになっている。放射能汚染の町からオリンピックの町へ大急ぎで塗り替えようという意図が感じられる。山のように積んであったフレコンパックが徐々に姿を消し、津波で壊された建物などもとりこわされ、いたるところに新しいアパートや一戸建ての家などが建てられている。住民が戻ってきたのではない。原発廃炉やオリンピック施設建設の労働者が住むのだ。

次いで楢葉町宝鏡寺へ。昼食後早川篤雄さんのお話を聞き、再び伊東さんの案内で富岡町へ。3.11のままの富岡高校には女子サッカーなどの大会出場を祝う表示がありかえって悲しい。アインシュタイン、マリー・キュリー、エジソンの家を模した廃炉資料館には東電の反省の言葉はいっぱいあっても被害者についての記述は一切ないという。

中間貯蔵庫

夜の森をバスの中から眺め、ゲート(身分証明書が必要)を通って双葉町役場へ。初めて入る双葉町は今では一人も住民がいない唯一の自治体である。小川貴文さんの案内で一部だけ一時避難解除されたふたば駅周辺を少し歩き、建設が始まった中間貯蔵施設をバスの中から見学した。水俣から来た中山裕二さんは「この広大な土地に穴を掘って汚染物質を埋めるという発想は、ミナマタを思い出させます」という。こうして汚染物質を隠して原発事故をなかったものとしてしまうのか。

伊東さんの案内で浪江町請戸地区の慰霊碑を見学。請戸小学校の子供たちが津波からここまで逃げてきて一命をとりとめた場所である。津波で犠牲となった住民の名簿の多さに愕然とする。

その後二本松市東和地区のゆうきの里へ向かった。菅野正寿さん宅で夕食交流会を行い、おいしい有機野菜をふんだんに使ったお料理を堪能し、3か所の農家民宿に宿泊した。なりわい訴訟の服部浩幸さんが駆けつけてくれた。

故郷喪失は遺骨にもおよぶ

翌17日は浪江町へ移動、ゲートを通って津島地区へ行き三瓶春江さん宅へ。初めて被害者のお宅に立ち入らせてもらった。カビと野生動物に荒らされ、見るも無残である。花嫁姿の春江さんの写真が悲しい。今野秀則さん宅の松本旅館でお茶を飲みながら津島の皆さんと交流した。ここは逆に汚れが一つもない。それでも、働けるうちに帰ってくることはできないので、この家も取り壊さざるを得ない。今野さん、三瓶さん、佐々木やす子さん、武藤春男さんから津島の被害をお聞きした。お墓の放射線量が高いので埋葬できない遺骨が大量に残されており、ふるさと喪失とは、生きている人間のみか死亡した人にもおよんでいることを知った。

浪江役場に移動して三浦広志さんと合流し、南相馬市小高地区の農業再建の新事業の話を聞き、相馬市の野馬土へ。カフェで昼食を食べながら三浦さんの話を聞いた。三浦さんやゆうきの里の菅野さんたちは福島に農業を復活させたり再生可能電力を売って「住民のための真の復興」をめざしている。

その後飯舘村役場へ移動して村議の佐藤八郎さんから飯舘村の現状を聞いた。佐藤さんの話はベランメエ調で面白い。面白くしないと涙が出てしまうからだという。

(詳しくはJNEPニュース12月号に掲載します。)

新駅J・ビレッジ

JNEP情報（2019年11月）

東京電力など、日本原子力発電を支援

東京電力ホールディングスは、日本原子力発電を支援すると発表した。支援額は発表していないが新聞報道によると2200億円とみられる。日本原子力発電は東京電力など5社から3500億円（報道による）の支援を受けて東海第二原発再稼働を目指す。日本原子力発電は敦賀と東海第二の3基の原発のうち敦賀の1基は廃止、敦賀の1基は直下に活断層があり、残る1基が東海第二原発である。

東京電力ホールディングは株式の50%超を政府認可法人の原子力損害賠償・廃炉等支援機構が持ち、同機構は経済産業省の官僚を東京電力ホールディングの取締役に送り込んでいる。日本原子力発電支援容認は、日本政府の容認があるとみられる。

米国連邦政府、パリ協定離脱を通報

米国連邦政府は、パリ協定からの離脱を通報した。

米国は国としてパリ協定に加わらない唯一の国となる。但し、離脱できるのは1年後、次の米国大統領選挙の翌日である。次の大統領選挙に向け温暖化対策は大きな争点になっている。また、米国には「われわれは（パリ協定に）留まる」という運動があり、10州、287市、2228企業、353大学が署名している。

気候変動枠組条約の会議開催場所、マドリードに変更

12月にチリのサンティアゴでの開催が予定されていた気候変動枠組条約の締約国会議は、地下鉄運賃値上げを契機とした激しい反対運動、反政府デモが続き、チリ政府が開催を断念、かわってスペイン首都マドリードで開催する。

ドイツ政府、気候保護法案承認、国会提出

ドイツ連邦政府は10月に気候保護法案を承認した。今後国会で議論される。

同法案は2030年目標つまり温室効果ガス排出量の1990年比55%削減を確実に達成するため、拘束力ある目標を定める。また、専門家委員会により点検し、指摘について監督官庁が対応する。また、新たに2050年排出ゼロ目標達成を定めている。

ニュージーランドは2050年温室効果ガス排出ゼロを法律に

ニュージーランドは11月7日、国連でも宣言した2050年温室効果ガス排出ゼロについてメタンガス以外の排出をゼロに、生物由来のメタンガスは2017年比24～47%削減する法律を可決した。与党労働党だけでなく、野党の国民党も賛成した。政府は英国のように気候変動委員会を設置し、5年間の排出枠（排出上限）を設けて対策に取り組む。

自治体が気候非常事態宣言

9月に長崎県壱岐市議会、10月に神奈川県鎌倉市議会が「気候非常事態宣言」を採択した。また10月に京都市議会も「気候危機・気候非常事態宣言を前提とした地球温暖化対策の更なる強化を求める意見書」を採択したが「IPCC1.5℃特別報告書をふまえた地球温暖化対策の更なる強化を求める意見書」は否決した。

長崎県壱岐市の宣言では、「地球温暖化に起因する気候変動が人間社会や自然界にとって著しい脅威となっていることを認識し、ここに気候非常事態を宣言します。」とし、「気温上昇を1.5℃に抑えるためには、2050年までに CO_2 排出量を実質ゼロにする必要があります」とし、壱岐市が市内で使うエネルギーを化石燃料から市内の再生可能エネルギーに完全移行できるよう取り組みを加速するとし、また日本政府や他の自治体に気候非常事態宣言の連携を広くよびかけるとしている。

また鎌倉市の宣言では、市に温室効果ガス排出ゼロを目標にするよう求めている。

気候非常事態宣言は、気候の危機を宣言し対策の抜本強化を求めるもので、国や自治体では24ヶ国1188組織、域内人口2億9000万人に相当する国・自治体が宣言している。

おくださが子

公害・地球懇　活動日誌

１０月
2日(水)◇横須賀石炭訴訟(東京地裁)
4日(金)◇公害総行動事務局会議
5日(土)◇「風の会」“危ない水の問題”学習会
◇測定運動東京連絡会「報告集会」
7日(月)◇東京あおぞら連絡会常任理事会
8日(火)◇原発さいたま訴訟(さいたま地裁)
10日(木)◇FTA日米貿易交渉「院内集会」
◇じん肺キャラバン
「関東ブロック集会」(さいたま市)
11日(金)◇原発千葉訴訟控訴審(東京高裁)
16日(水)◇大気汚染公害調停
「公調委要請」～メーカー抗議
17日(木)◇原発東京訴訟控訴審(東京高裁)
21日(月)◇大気汚染「トヨタ要請」
(団体署名提出)
23日(水)◇じん肺キャラバン「院内集会」
24日(木)◇「原発と人権」ネットワーク
25日(金)◇大気汚染
「団体署名要請千葉県オルグ」
26日(土)◇大気汚染
「モーターショー・アピール行動」
◇避難者の住いと人権を守る
10・26集会
30日(水)◇ｅシフト定例会合
31日(木)◇原発ゼロ国会議員の会
「エネルギー調査会」

１２月の主な予定

１２月
1日(日)～2日(月)◇公害総行動「箱根合宿」
(箱根湯本)
7日(土)◇川崎公害根絶市民連
「学習決起集会」＆「総会」
(13:00～ 川崎教育会館)
17日(火) ◇「原発と人権」ネットワーク
(10:30 日民協会議室)
20日(金)◇原発かながわ訴訟「控訴審」
(14:00　～東京高裁)
25日(水)◇原発さいたま訴訟口頭弁論
(14:00～さいたま地裁)
26日(木)◇「西さんを偲ぶ会」
(14:00～ 文京区民センター2A)

西順司さんの訃報

公害･地球懇事務局次長　清水瀞

東京公害患者会会長を40年務めた西順司さんが今年10月に亡くなった。(享年86歳)

11年余にわたる東京大気公害裁判の原告団長として活躍し、ぜん息患者の救済に人生をかけた。東京高裁における勝利和解(2007年)を実現した中心的役割が認められ2010年には「東京弁護士会人権賞」を受賞。

公害認定患者に加えギランバレー症候群を発症、さらに脳梗塞に倒れ(2010年)闘病生活を続けていた。いま全国的な「医療費救済制度創設」を求める新たなたたかいの真っ只中。志半ばで倒れた西さんの遺志を受け継ぐ「偲ぶ会」が12月26日(14:00～文京区民センター)にて催される。

発　行　：公害・地球環境問題懇談会　(公害・地球懇／JNEP)
連絡先　：〒160-0022 東京都新宿区新宿2-1-3　サニーシティ新宿御苑10F
TEL 03-3352-3663　　FAX 03-3352-9476
郵便振替　：00140-1-80892　加入者　公害・地球環境問題懇談会
URL　　：http://www.jnep.jp/

ネモやんの福島便り

第39回：「台風19号が福島に残した傷跡」

「生業（なりわい）・福島原発訴訟」原告　根本　仁

10月12日から13日未明にかけて大雨を伴って福島県を通り過ぎた台風19号。福島市の私の自宅付近に崖はなく、近くを阿武隈川に注ぐ支流の一級河川・松川が流れているだけですが、川の様子から自宅まで水が近づくとは到底思えませんでした。台風の強風も吹かず、これは「大山鳴動して鼠一匹」のごとき台風だな、と安心して床に就きました。そして朝になりテレビをつけると、河川の決壊、堤防越えによる住宅の浸水、田畑への冠水、山間では崖崩れ、避難途中での車内での水没死、国道・県道の通行止めなど、広範囲の様々な被害を報じていました。さらに浜通りのいわき市では、東京消防庁のヘリで77歳の女性の救助に当たっていた隊員が女性を誤って落下させ、死亡に至る事態も発生しました。

地元紙の「福島民報」は、台風の被害の様子を『台風19号・大雨　ふくしまは負けない　明日へ』というタイトルで、連日福島県を中心とした台風19号の被害と復旧の様子を報じてきました。そして11月12日には『台風19号1カ月　県内被災地の今』と題する記事を掲載しました。それによりますと県内の死者は30人、床上浸水家屋1万1800戸、農林水産業被害618億円、などとなっています。そして今回の台風19号は台風進路が阿武隈川と並行していたことが大きな水害を引き起こしたと分析しています。福島県一の大河である阿武隈川は福島県の南部に源を発し、県内の中央部を南から北東に流れ宮城県で太平洋に注ぐ川です。

阿武隈川の氾濫では、原発事故で出た放射性物質を含む汚染土などを包んだフレコンバックが泥流に流され各地で汚染土が流出しました。さらに、下流の福島市や桑折町、国見町など、果物王国・福島の主産地でサクランボ・桃・梨・ぶどう・リンゴ畑が冠水。阿武隈川本流の水嵩が増したことで、本流に流れ込むことの出来なくなった支流の水があふれ出る「バックウォーター現象」で冠水したのです。畑一面を覆う土砂が根の呼吸を妨げるため、来春に芽が出るかどうかを農家の人は心配しています。ある「桃」栽培農家の主婦は「桃の売れ行きも、原発事故での価格低迷も、最近になってようやく回復してきたというのに、福島はいつまでたってもいじめられんない（いじめられる）」と話していました。

台風19号の被害・復旧・原因究明・今後の課題は、今の段階で全容を見極めるのは極めて困難であることを実感しています。

「台風19号が去った早朝の松川」